

北朝鮮問題を討議

6カ国15人の研究者ら

国際関係研究所主催の「北朝鮮と北東アジアの平和と安定」が11月20、21日の2日間、国際関係学部教授をはじめ米

国際関係研究所主催の「北朝鮮と北東アジアの平和と安定」が11月20、21日の2日間、国際関係学部教授をはじめ米



国際シンポジウムの第1セッションで討議するシンポジスト

ら分析した報告がなされ、それらを基に現実に即した討議を行った。

「東京」を解剖

写真展とシンポジウムで

文理学部主催の写真展「第2回『東京』を解剖」が11月21日から30日まで、同学部百周年記念館で開催され、26日にはその一環として同記念館内の国際会議場でシンポジウムも開かれた。

この写真展は後藤範章同学部教授(都市社会学)の指導の下、ゼミ生が東京の今を表象していると思う事象を写真に切り取り、タイトルと社会的な分析を加えた解説文を付けることで「東京」と「東京人」を読み解こうというプロジェクトで、23作品30点(一部組み写真)を掲出。シンポジウムは、建築雑誌の協力を得て東京駅とその周辺の記録写真25点の展示も同時に行った。



来場者でにぎわう文理学部の写真展「第2回『東京』を解剖」

写真を使ったこのプロジェクトは平成6年に始まり、昨年から外部とも

丸の内・皇居」にかかわり深い6人がシンポジストとして出席。後藤教授の座長で、「丸の内らしさ」に関するアンケート調査の結果や丸の内一帯の変遷と現在進められている再開発の全容などが報告された後、会場からの質問に答えた。

写真展には期間中、約2100人が訪れ、シンポジウムは約200人が

芸術 講演会「ユートピアを越えて」

イタリアの建築家招き

芸術学部の講演会「ユートピアを越えて」が、11月10日、イタリア人建築家クリスティアノ・ポランシオ氏を招いてカザルスホールで開かれた。

ポランシオ氏はイタリア・カメリーノ大学助教授。1966年にフィレンツェで建築家集団「P5」を結成。消費社会を拒否した前衛的な作品が話題を呼び、当



時建築家を志す学生たちの旗手と称された。

講演会は、60年代にポランシオ氏が新しい価値観を提言したと同様に不安定な現代社会に新たな

世界観を見いだすきっかけとなることを狙った。同氏は映像でこれまでの活動を振り返り「建築学は社会の問題を解決するのではなく、問題を提起しなければいけない」とメッセージを送った。

講演の後、建築家伊東豊雄氏と建築評論家五十嵐太郎氏を交えて討論が行われた。写真。

理工 衛星設計で大賞を受賞

第14回衛星設計コンテストが10月29日、都立産業技術高専で行われ「設計の部」には、全国

「設計の部」で理工学部4年山崎政彦君ら10人が制作した衛星「PRIMROSE」が最優秀作品に与えられた。設計大賞を受賞した写真。

このコンテストは日本機械学会、日本航空宇宙学会などが主催。全国の大学生や高校生などを対象に宇宙への研究機会を提供し、わが国の宇宙開発のすそ野の拡大を目的としている。



から7作品が参加。将来の大型宇宙構造物で注目されている、収縮された薄膜にガス注入すると大型化するインフレーター構造物の技術を用いていることや飛翔軌道として新しい観測軌道として提案していることなどが高く評価された。

福岡玄洋社を地元で再検証

通信教育シンポジウム

平成18年度通信教育部公開シンポジウム「アジアは燃えていたか」が11月25日、福岡県水産会館で開かれ、アジア主義の担い手としての視点から福岡玄洋社の再検証を試みた。翌26日には玄洋社に関する史料を見学して理解を深めた。

シンポジウムでは高綱博文通信教育部長が、記念館や設立者頭山満の生家跡などを見学した。



元農相が基調講演

も早く唱えた福岡玄洋社の歴史をたどり、アジア主義が今も意味を持ちうるか地元福岡で考えてみたいと問題提起。趙軍千美福岡大学教授と石瀧豊美福岡地方史研究会会長が基調講演を行った後、4人のパネリストによるディスカッションが行われた。約150人の参加者からは質問が多数出され、関心の高さをうかがわれた。

翌日の史料見学会では、34人の参加者が玄洋社記念館や設立者頭山満の生家跡などを見学した。

理工・石川教授らに日本翻訳出版文化賞

日本翻訳出版文化賞の第42回日本翻訳出版文化賞の表彰式が10月6日、東

旧司法試験 5人が合格

法務省は11月9日、平成18年度旧司法試験の合格者を発表、大学出身別で本年度は14人だった。昨年度の総数は549人で、昨年度の1464人

問題「核とミサイル」に「体制とその他」の2つに分けて討議。マーク・カプリオ立教大学法学部教授、黒川祐次・国際関係学部教授、ユリー・フォードロフ・モスクワ国立国際関係大学教授兼軍事問題研究所理事ら8人が各自の観点から核危機の解決策などについて報告、歴史的背景や相互理解の重要性、核保有国として固定化する可能性などを指摘した。

これに対して、キ

「東京」を解剖

写真展とシンポジウムで

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

シンポジウム

- 総長月誌
- 15日 表敬訪問・スウェーデン王立カトリクスカ研究所蔵センター・アーネ・オストマン教授
 - 16日 船橋市都市計画審議会
 - 17日 表敬訪問及び協定更新調印式・山東大学、大学トップマネジメントフォーラム、日本大学全国校友大会
 - 20日 千代田区都市計画審議会
 - 24日 ポート祝勝会
 - 25日 平成18年度日本大学体育大会・2006NUS総会閉会式
 - 26日 松戸歯学部長就任祝賀会
 - 28日 私大連理事會・総会
 - 29日 講演会・山形中学校、収録・山形テレビ